

団 体 表 彰

生 協 名	表 彰 対 象	表 彰 理 由
コープぐんま	平和グループ「はと」 代表 根岸 尚代	会員数 9名 私たちが日々、安心して暮らしを送るための基本ともいえる「平和」をテーマに活動している高崎・藤岡エリアのグループです。毎月一回開かれる定例会の中で講師を招き学習をしたり、時には県外へ足を伸ばして歴史的建造物や戦跡地の見学をするなど精力的に活動しています。この夏の平和行進では碓氷峠にかけつけ、長野県からの引継ぎ式を歌で盛り上げたり、子育てがテーマのグループと協力して平和記念日に子ども向けの平和映画を上映、また日本にある米軍基地の数や場所を示した地図の展示やバザーの収益を募金にするなど、様々な角度から多くの人に平和について考える機会を与えています。
	福祉グループ「どんぐり」 代表 藤崎 クルミ	会員数 9名 「どんぐり」は、コープ細井店で「サロン」を開いている前橋エリアの福祉グループです。2005年10月に初めての「サロン」を開いて以来、代表の藤崎さんを中心に約10人のメンバーで、奇数月に「サロン」を開いています。訪れる人は、毎回30人前後と賑やかな「サロン」です。8月の細井店リニューアルオープンの時にも、臨時の「サロン」をしていただきました。 「旬の素材を使い、メンバーも訪れる人も楽しくをモットーにし、みんなで話し合いながらメニューを考え、話し合うことが勉強になる」と代表の藤崎さんの言葉です。9月には、エリア会主催のおしゃべり試食会で料理教室の講師をお願いしました。

生協名	表彰対象	表彰理由
生活クラブ生協	生活クラブ生協 高崎支部 200554班 代表 五味 瑛子	会員数 40名 班の組合員数は40人です。年代は70代6人、60代9人、50代6人、40代13人、30代4人、20代2人の構成ですが、まとめ役の班長は70代で大所帯の班員の流れを把握しているのは立派です。共同購入の金曜日には3～4人の組合員が役割分担をして、消費材の優位性や生産者の思いを語りながら共同購入の仕分けに参加しています。この班の世帯当り、月利用平均金額は9月で21,000円、個人の注文用紙提出率は90%です。昨今、戸配優先、「班」の形態を苦手とする組合員が多い中で、熟女たちが「自分たちの食は自分たちで守ろう！」をかかげ、人と人のつながりを大事にし、共同購入を生活の中で活用・エンジョイしている班です。
	藤岡準備支部委員会 代表 新井 恵	会員数 6名 藤岡準備支部として1年半になります（組合員数197人）委員6人の他に活動をサポートするサポーター6人がいます。子育て世代で、子供のこと趣味や仕事もきちんとしながら時間を有効活用しています。リーダーとの連携、活動の事前打合せもしっかりできています。今年の活動の中に市民パレードに参加・布ナプキン作り・石けん学習会（子供向け）等もあり、たまごしんぶんという広報誌を発行しています。劇団「四季折々」を結成し、テーマに「卵」「遺伝子組み換えってなあ～に」の寸劇は総代会・支部大会・学習の場で好評を得ています。楽しみながら学習、やれる範囲で活動をし、リーダーシップをとっている委員会です。

生協名	表彰対象	表彰理由
パルシステム群馬	ピース班 代表 石田 悦子	会員数 3名
	<p>渋川地区の共同購入グループ 毎週利用、荷おろしなどの積極的な手伝いは欠かしません。メンバー間でのお勧め商品があればその場で試食をしたりもしています。このようなグループならではの知り知らせる活動を楽しんでいます。また最近では環境問題についての話し合いをすることが多く、特に話題になるのが化学物質過敏症や農薬についてです。このような情報を今後も生協の活動に活かしていただけることを期待しています。</p>	
	伊勢崎太田地区サポータくらぶ 代表 櫻井 はるか	会員数 8名
	<p>「楽しみながら気軽にできるエコライフを提案」をテーマに、伊勢崎太田地区を中心に活動しています。利根川の河川敷を親子でごみ拾いを行うなど、地域に根ざした環境活動を活発に進めています。</p>	

生協名	表彰対象	表彰理由
はるな生協	矢中いこいの家「ゆうゆう」 代表 笠原 綾子	会員数 100名
	<p>2004年8月、一人ぼっちの高齢者をなくそうとスタート。 毎日集まり、ストレッチ、カラオケ、あみ物、パッチワーク、囲碁将棋など楽しんでいます。</p>	
	はるな生協歯科診療所 代表 古市 明弘	会員数 20名
	<p>はるな生協中居支部と協力し、地域訪問、健康講座、茶話会など協同してとりくんでいます。</p>	

生協名	表彰対象	表彰理由
利根保健生協	水上支部 代表 阿部 功	会員数 1,525名 水上支部の生協組合員世帯は1,525世帯で組合員組織率は63.2%。支部の出資金総額は47,490千円、一組合員平均出資金額は31,140円です。 日本生協連医療部会の通信教育では、この数年支部役員の70%程度の人が受講し、修了の援助や交流を兼ねての支部独自の学習会を開いています。 今年で4回目の「機関紙配布者交流会」も年1回行い、生協活動の前進に役立っています。
	高山支部 代表 大木 一雄	会員数 571名 高山支部の生協組合員世帯は571世帯で、組合員組織率は44.6%。支部の出資金額は22,516千円、一組合員出資金額は39,432円です。 医療部会の通信教育では、この数年100%近い支部役員が受講し、支部独自の学習会を実施しています。また、前年は「歯の保健大学」を開校し保健活動の普及に努めました。

生協名	表彰対象	表彰理由
群馬中央医療生協	富士見支部 代表 半田 かつ代	会員数 756名 ○ まちかど健康チェックと署名行動を月1開催 ○ 機関紙配布網の整備 富士見支部では、2007年度の支部方針として、組合員と職員の参加で街角健康チェックを毎月行いました。地域の方々と対話し、健康チェックを行い、後期高齢者医療制度の署名活動などを定期的実践しました。また、医療生協を広める上で基本の部分である機関紙「くらしと健康」を全組合員に配ろうという意識のもと、未配布の地域を調査、訪問し、配布者増やしと配布率向上に取り組み、成果をあげることができました。 自分たちが住んでいる「まち」を、健康づくりや助け合い活動を広げようとした視点で取り組むことで富士見支部活動の活性化となっています。
	あずま支部 代表 星野 泉	会員数 1,289名 地域のまちづくりをすすめるために支部分割をめざした活動を推進し、医療生協全国四課題目標（仲間ふやし、出資金ふやし、班づくり・班会開催、担い手づくり）を達成。 健康づくりや助け合い活動等を広げ、地域がみえ、小回りの利く活動をするために、2009年3月に支部分割を計画し下記の取り組みを行いました。 ① 分割を予定した新たな地域で「支部運営委員や機関紙配布者」の担い手づくり ② 大利根お茶のみ班や箱田班など班づくり ③ 決めたことはやりきるという組織原則にこだわり、07年度目標を達成した

生協名	表彰対象	表彰理由
北毛保健生協	古巻 上南有馬班 代表 宮下 歌子	会員数 13名 1997年より年間計画を立て、定期的に必ず毎月第4月曜日の午後1時30分から2時間ほど班会を開き現在まで継続をしています。11年間健康チェックを続け病気の早期発見に結びつけてきました。「健康で地域で長生き」を目的にさまざまな学習（介護保険のこと医療制度のこと）とストレッチ体操、ヨガ体操、きなこあめ作り、そば打ち教室などを班会で継続的に行ってきています。
	院所利用委員会 代表 須田 茂	会員数 16名 北毛保健生協の各支部から委員を選出し、組合員と職員との合同で構成されています。 組合員自らが医療生協の「患者の権利章典」に基づき北毛保健生活協同組合のあらゆる施設を利用しやすくするため、定期的に毎月第2火曜日に2時間ほどの会議を行っています。施設内に「虹の投書箱」を設置。会議で投書の内容を議論し、投書された方に掲示板を使って返したり、住所などの記入がある場合は個人のお宅まで訪問するなどの活動を繰り返し行っていきます。生協の施設をいかに快適に利用してもらうか、いかに利用者を増やして行くか日々考え活動をしています。